

問題6 誤っている組合せはどれか。

- a. 観念奔逸 —— 考えが次々に湧き出し、早口でしゃべり続ける。
- b. 考想伝播 —— 自分の考えが周囲に知れ渡っていると感じる。
- c. 連合弛緩 —— 思考の流れが突然遮断される状態である。
- d. 妄想気分 —— 現実的に脈絡のない考えが突然ひらめき、それを確信する。
- e. 妄想知覚 —— ある知覚刺激に対して独特な意味づけがなされ、それを信じる。

1. a,b 2. a,e 3. b,c 4. c,d 5. d,e

答え：4 区分：精神医学

【解説】

精神医学の領域の中では症候を説明する用語は比較的頻出である。区分：と用語の意味はおさえておけるようにしよう。

- a. ○正しい。
- b. ○正しい。
- c. ×連合弛緩は、思考の意味がとれなくなり、まとまらなくなることである。選択肢の説明は思考途絶である。
- d. ×妄想気分は、なにか（よくないこと）が起こりそうだという不安である。選択肢の説明は、妄想着想である。
- e. ○正しい。

問題7 リスク管理の指標として正しい組合せはどれか。

- a. ALT (GPT) —— 急性腎炎
- b. T-Bil —— 肝胆炎
- c. CK (CPK) —— 心筋梗塞
- d. CRE (Cr) —— 感染症
- e. HbA1c —— 栄養不良

1. a,b 2. a,e 3. b,c 4. c,d 5. d,e

答え：3 区分：リハビリ医学

【解説】

血液データについては、どのデータが何の指標となるかの知識を基礎的なものだけでもおさえておこう。

- a. × ALT (GPT) は肝臓・心臓などに多く含まれているアミノ酸代謝酵素で、肝障害、心筋梗塞の指標である。
- b. ○ T-Bil は総ビリルビンである。ビリルビンは血液中のヘモグロビンから作られる色素で、肝臓や肝胆道系の疾患、溶血性貧血で高値を示す。総ビリルビン値が高いと黄疸がみられる。
- c. ○ CK (CPK) は、クレアチンキナーゼであり、骨格筋や心筋など筋肉に多く含まれている酵素である。筋肉に障害があると高値を示す。心筋梗塞ではCK-MBが高くなる。
- d. × CRE (Cr) は、クレアチニンであり、腎機能を示す指標である。CK (CPK) と読みが似ているので混同しないように注意。感染症のリスク指標はCRP (炎症値反応) である。
- e. × HbA1c は、糖尿病のリスク指標である。栄養状態の指標はTP (総蛋白)、Alb (アルブミン) などである。

5. ×吸息相と呼息相の時間的比率はおおよそ2:3である。

問題 13 正しい組合せはどれか。

- a. 鼓膜穿孔 ————— 慢性化膿性中耳炎
- b. 耳小骨筋反射消失 - 耳硬化症
- c. C⁵dip ————— 老人性難聴
- d. 補充現象陽性 ——— 内有毛細胞の障害
- e. 自声強調 ————— 耳介欠損

1. a,b 2. a,e 3. b,c 4. c,d 5.d,e

答え：1 区分：聴覚系医学

【解説】

疾患と所見の基礎的知識の問題である。聴覚系医学の領域では、聴覚器官の解剖、生理、神経系構造と反応の他、疾患と所見に関する問題が出題されやすい。

- a. ○正しい。
- b. ○正しい。耳硬化症や耳小骨離断では耳小骨筋反射が消失することがある。この2つの疾患についてはティンパノグラムの型も必ずおさえておこう。
- c. × C⁵dip は騒音性難聴（音響外傷）でみられる特徴である。老人性難聴はオージオグラムで高音急墜型や高音漸傾型（この2つをまとめて高音障害型と呼ぶこともある）がみられる。
- d. ×補充現象陽性は、コルチ器の外有毛細胞の障害によるとされる。
- e. ×自声強調は耳管開放症や耳管狭窄症でみられる。

問題 14 感覚成分をもたないものはどれか。

- a. 嗅神経
- b. 視神経
- c. 滑車神経
- d. 舌下神経
- e. 舌咽神経

1. a,b 2. a,e 3. b,c 4. c,d 5.d,e

答え：4 区分：神経系医学

【解説】

神経系医学は出題内容にバラつきがみられるが、脳神経に関する問題は過去10年間で4回出題されており、そこそこの頻度がある。脳神経については必ずおさえておこう。

- a. ×嗅神経は感覚成分（嗅覚）のみをもつ。
- b. ×視神経は感覚成分（視覚）のみをもつ。
- c. ○滑車神経は運動成分のみをもち、上斜筋の運動に関与する。障害されると眼球運動障害、複視、代償性頭位などがみられる。
- d. ○舌下神経は運動成分のみをもち、舌筋の運動に関与する。障害されると舌の運動障害がみられる。
- e. ×舌咽神経は運動成分、感覚成分、副交感神経成分をもつ。運動成分としては茎突咽頭筋の運動に関与する。感覚成分としては舌の後1/3の味覚、舌の後1/3・耳・咽頭の温痛覚、触覚、咽頭・頸部の内臓感覚を知覚する。副交感神経成分としては耳下腺の働きに関与する。

問題 15 動機づけについて正しいのはどれか。

1. 要求水準は個人および課題によって内的に設定される。
2. 感覚遮断実験によって探索動機づけが説明される。
3. 美味しそうな食物は摂食行動を引き出す動因である。
4. 興味・関心から行動を起こすのは外発的動機づけである。
5. 社会的に一定以上の成績を出そうとするのはホメオスタシス動機づけである。

答え：1 区分：学習認知心理学

【解説】

動機づけについて概論レベルで知識をおさえておこう。

1. ○要求水準は、個人が課題の達成をどのレベルに設定するかの水準である。①自分の能力評価、②過去の成功・失敗経験、③課題への自我関与の程度、④所属集団の基準、⑤課題のリアリティなどによって変化する。要求水準の例：テストの点数（90点以上でも満足しない者もいれば、赤点を回避すれば良いとする者もいる）、年収（1000万円以上でも満足しない者もいれば、300万円です十分と考える者もいる）など。
2. ×感覚遮断実験によって説明されるのは活動の動機づけである。
3. ×選択肢文の説明は誘因である。動因は空腹、喉の渇きなど。動因は生理的な内的要因のために生体が自発的に動こうとする行動要因である。誘因は美味しそうな食物の写真や匂いなど、外部にあるものの刺激でその行動が誘発されるような行動要因である。
4. ×選択肢文の説明は内発的動機づけである。先生に褒められたいから行動する、などが外発的動機づけである。誘因と動因が生理的動機づけ（ホメオスタシス動機づけ）に関連するのに対し、こちらは社会的動機づけに関連する。
5. ×選択肢文の説明は達成動機づけである。

問題 16 背の高い人をみるとバレーなどのスポーツ経験者だと予測してしまう。この思考の背景にあるものはどれか。

- a. ステレオタイプ
- b. 機能的固着
- c. 固着性ヒューリスティック
- d. 利用可能性ヒューリスティック
- e. 代表性ヒューリスティック

1. a,b 2. a,e 3. b,c 4. c,d 5. d,e

答え：2 区分：学習認知心理学

【解説】

思考法についておさえておこう。ヒューリスティックは、大体の検討をつけて、それを集中的に検討する考え方で、経験則に基づいた直感的な問題解決法ともいえる。ヒューリスティックはいくつかの種類に分けられる。

1. ○ステレオタイプは、集団やその構成メンバー、属性に対する過度に一般化されたスキーマのこと。ステレオタイプはスキーマなど、状況認識に関連する用語だが、この問題の内容にも当てはまると考えられる。
2. ×機能的固着は問題解決を阻害する要因の一つである。大きなビニール袋を、雨合羽の代わりに使うことを思い浮かばないなど、本来の用途に囚われて別の用法をさっぱり思いつかないことなどが挙げられる。
3. ×最初に与えられた情報を基準として、それに調整を加えることで判断するプロセスである。例えば、「定価5万円」と「定価8万円が5万円」と言われると後者の方が最初に8万円という情報が入っているため安く感じる。
4. ○思い出しやすい事項や日常的によく見聞きする記憶情報を優先して評価しやすいプロセスのこと。例えば、飛行機事故はそれが起きるとニュースなどで話題にされやすいため、自動車事故より発生確率が高く見積もられやすいことなど。
5. ×典型的であると思われる事項の確率を過大評価しやすい意識のプロセスのことである。我々の思考負担を減らすための判断方略でもある。

問題 36 WISC- V の主要指標でないのはどれか。

1. 言語理解指標 (VCI)
2. 視空間指標 (VSI)
3. 知覚推理指標 (PRI)
4. ワーキングメモリー指標 (WMI)
5. 処理速度指標 (PSI)

答え：3 区分：言語発達障害

【解説】

WISC は 2021 年に V となった。IV とのもっとも大きな違いは知覚推理指標 (PRI) が視空間指標 (VSI)、流動性推理指標 (FRI) に分かれていることである。2023 年(第 25 回)の言語聴覚士の国家試験では WISC- V については問われていないが、過渡期ではあるが、出題される可能性はゼロではないので注意しておこう。なお、適用年齢は 5 歳 0 か月～16 歳 11 か月のままで変化していない。

<p>WISC- IV</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語理解指標 (VCI) ・知覚推理指標 (PRI) ・ワーキングメモリー指標 (WMI) ・処理速度指標 (PSI) 	<p>WISC- V</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語理解指標 (VCI) ・視空間指標 (VSI) ・流動性推理指標 (FRI) ・ワーキングメモリー指標 (WMI) ・処理速度指標 (PSI)
---	---

WISC- V では補助指標として、量的推理指標 (QRI)、聴覚ワーキングメモリー指標 (AWMI)、非言語性能力指標 (NVI)、一般知的能力指標 (GAI)、認知熟達度指標 (CPI) があることもおさえておこう。

問題 37 もっとも早期にみられるのはどれか。

1. ナラティブ
2. ディスコース
3. 協同遊び
4. プレリテラシー
5. 過大汎用

答え：5 区分：言語発達障害

【解説】

言語獲得の大まかな流れを理解しておこう。幼児前期、まだ表出語彙が 50 語に満たない状態では表出語彙の少ないため 1 つの語に一般的に大人が用いるより多くの意味を持たせることがある(例：「んまんま」という発語に「ママ」「ごはん(マンマ)」「美味しい(うまうま)」という意味をもたせる)。これを語の過大汎用という。そこから表出語彙が 50～100 語となったあたりで急速に語彙の獲得が増加する。これを語彙爆発という。語彙の獲得には疑問詞「何？」の獲得と三項関係の成立が大きく影響している。

語彙の獲得は語連鎖、意味方略の獲得へ続く。名詞、動詞、形容詞などの実質語の獲得が進むとともに位置を表す言葉や接続詞なども獲得していく。そして語順方略の獲得へとつながっていく。これらがナラティブ(語り)やディスコース(談話)の獲得にすすんでいく。

1. ×幼児後期(4 歳頃)にみられる。複数の文で出来事の流れについて、時間の連続性や意味の一貫性のある表現を行うことである。
2. ×幼児後期にみられる。複数の文がひとまとまりに連続し、文脈が連続する発話である。
3. ×協同遊びは、その場のルールを理解することによって、ルールに従ったり役割分担したりする遊びの形態である。幼児後期にみられる。
4. ×プレリテラシーは文字を習得する前の児童があたかも文字を読めているように振舞うことである。幼児後期にみられる。
5. ○前術の通り、幼児前期にみられる。

問題 38 声帯振動のボディ・カバー理論におけるボディはどれか。

1. 粘膜上皮
2. 粘膜固有層浅層
3. 粘膜固有層深層
4. 後輪状披裂筋
5. 甲状披裂筋内側部

答え：5 区分：音声障害

【解説】

声帯振動のボディ・カバー理論は有名ではあるが、言語聴覚士国家試験では問われたことはない。ここでは新規問題として予想した。

声帯振動のボディ・カバー理論は以下の通りである。

- ・「カバー」は最も振動しやすい部分であり、粘膜上皮と粘膜固有層浅層から成る。
- ・「移行部」は声帯靭帯ともよばれる部分であり、粘膜固有層中間層と深層から成る。
- ・「ボディ」は最も振動しない部分で支えとなるものである。声帯筋（甲状披裂筋内側部）から成る。したがって、5が正答である。

【ポイント】

発声時は、ベルヌーイ効果とカバーの弾性により、声帯の下部（下唇）から接触が開始し、全体が接触し、下唇から離れていくような声帯振動パターンが見られる。声帯筋が収縮すると、声帯は短く、分厚くなり、その分カバーが弛緩する。この振動パターンが、強い倍音成分を持った、地声らしい音色につながっていると考えられている。これらの部分は、お互いに疎に繋がっており、ある程度独立して動くと考えられている。

問題 39 構音障害児が /Sakana/ が /kasana/ と言い誤る場合、語の配列の誤りとして適切なものはどれか。

1. 音位転換
2. 同化
3. 同音反復
4. 付加
5. 音節脱落

答え：1 区分：機能性構音障害

【解説】

機能性構音障害では、「語の音の配列の誤り」や「発達上みられる構音の誤り」、「異常構音」がポイントである。今回は「語の配列の誤り」をこの問題で確認しよう。

1. ○「Sakana」を「kasana」と発音する場合、これは「置換」あるいは「音位転換」である。
2. ×同化とは目標音が隣接する音に影響されて、類似音や同一音になる現象を指す。例えば、「Sakana」を「kasana」と発音する場合などである。
3. ×同音反復は音節あるいは音節の一部が繰り返される現象を指す。例えば、「てれび」が「てれびび」になる場合などである。
4. ×付加は余分な音、音節が挿入される現象を指す。例えば、「でんわ」が「でんわん」になる場合などである。
5. ×音節脱落は単語内の音節が脱落する現象を指す。例えば、「てれび」が「てび」になる場合などである。